

インドネシアで再エネ×水産コールドチェーン

オリコンサルグローバルら

オリエンタルコンサルタンツグローバルとベンナーズ（福岡市）は、経済産業省の「グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金」に採択された。インドネシアでSmart Island Pilot Project（SIPP）の基盤を生かした水産資源の高付加価値化とDX（デジタルトランスフォーメーション）を掛け合わせた新たなサプライチェーンや市場の構築を目指す。

事業では、インドネシアの離島・遠隔地において、再エネ電源による低炭素型コールドチェーンと日本の高度な鮮度保持・加工技術、デジタルトレーサビリティを統合することで、未利用魚を高付加価値な製品として都市部やハラル市場へ流通させ、持続可能な海洋資源利用に貢献する。

同国は世界第2位の漁獲量を誇る一方で、離島などではインフラ未整備によりコールドチェーンの構築が進まず、水産物の鮮度劣化と価格低

マカッサル沖離島の
小規模漁船



迷が課題となっている。さらに全漁獲量の約7割を占める未利用魚は、適切な処理技術や市場がないために商品化が進まず、船内廃棄されるなど資源管理の面でも大きな課題を抱えていた。

このため、オリエンタルコンサルタンツグローバルでは、同国南スラウェシ州マカッサル市沖の離島で再生エネルギーを電源としたコールドチェーン設備を導入し、離島の電化と水産業の発展を促進するSIPPを進めている。水産物流のGX（グリーントランスフォーメーション）

・DX化を通じて海洋資源の有効利用を促進し、持続可能な新規市場の形成を目指す。